

『実験!!』 作…岩本憲嗣

■登場人物

渡辺たえ (29) OL  
山内将太 (29) 小児科医  
森倉誠一 (29) 理科教師  
宮平弓子 (24) たえの後輩  
塩川奈美 (27) 山内の同僚

○商店街・夜

ニット帽をかぶった山内将太 (29) と渡辺たえ (29) が並んで歩いている。  
たえの手にはバーのマッチ

たえ「マスター残しておいてくれるって約束したのに。本当美味しいんだから。一度飲んだら焼酎の考え方変わるよ本当」

山内「なんて名前のお酒だっけ? テンテケ…」

たえ「鍛高譚。しそ焼酎」

二人、横断歩道の赤信号で立ち止まる。

山内、たえのスニーカーの結びがおかしい事に気づく。

山内「あ、蝶結び逆だよ」

たえ「え? どっちでもいいよ」

山内「良くないって、これじゃ死んだ人だ」

山内、しゃがみこんでたえの靴紐を結び直す。たえ、山内の帽子を撫でる。

たえ「いいじゃない。私センスいいかもね」

大きな買い物袋を抱えた森倉誠一 (29) が現れる。

森倉「公衆の面前で何イチャついでる」

たえ「あ! 森倉君? 何その大荷物?」

森倉「ザラメ。実験で使うんだ。何? デート? いいねえ、恋人同士は」

山内「別にそういうのじゃ…」

たえ「ないの？」

山内「ないでしょ」

森倉「なあ、また同窓会企画してくれよ。今度こそは俺も」

山内「同窓会と合コンは違うんだぞ」

森倉「非協力的だな。だったらせめてこっちには協力してくれ」

森倉鞆からチラシを取出し山内に渡す。

たえ「なに？」

森倉「理科離れ阻止の一環。日曜に実験教室やるからさ、小学生いたら宣伝お願い」

山内「へえ、教員らしいことやってるんだ」

信号が青に変わる。

森倉「そゆこと。じゃせいぜい楽しんで」

森倉一人横断歩道を走り去る。

○たえの会社の給湯室

宮平弓子(24)とたえが洗い物をしてる。

弓子「絶対おかしいです！先輩騙されてます

たえ「そんなことないと思うんだけど」

弓子「そんなことありますって。だってその人と同棲までしてるんですよ？」

たえ「同棲っていうか、たまに家に来て泊まってく」

弓子「で、何してるんですか？」

たえ「私の愚痴聞いてもらったり、ご飯作ってもらって二人で食べたり」

弓子「それで恋人じゃないなんて、絶対いいように利用されてますよ」

たえ「中学校の時はそんなじゃなかったよ」

弓子「一体何十年前の話してるんですか！？」

たえ「何十年って、あなたね」

弓子「じゃあ実験しましょう。試すんですよ本当にその同級生さんが先輩と付合っ気があるのか」

たえ「どうやって？」

○病院・病院内の休憩室

白衣を着た山内が座って山内から受け取ったチラシを眺めてる。

塩川奈美(27) がやってくる。

奈美「居た。昨日大変だったんですよ」

山内「え？何かあったの？」

奈美「先生の紹介の栄吉君。また脱走です」

山内「そうなんだ。休むんじゃないか」

奈美「肺炎だから安静にしてないといけないのに……。脱走は必ず毎週木曜日。なんか理由があるとありません？」

山内「分からない。ま、本人に聞こうよ」

山内、チラシを休憩室に置いて去る。

○たえの家・居間 夜

炬燵に入っているたえ。

山内が揚げたてのトンカツを持ってやってくる。

山内「嘘ついたでしょ？病人はとんかつなんて食べたがらないよ普通」

たえ「風邪だつて行ったらすぐ来てくれるのかなって。凄いな、トンカツって家で作れるんだ」

山内「家じゃなかったらどこで作るの？」

たえ「買ってくる」

山内「ああなるほど。それじゃもう帰る」

たえ「なんで？」

山内「なんでって、やることあるし」

たえ「ああちよつと待って！……そう！誕生日なの。私、明後日。なんかなの？」

山内「おめで：たくないか。三十路だもんね」

たえ「別にいいでしょ！ねえ明後日暇？」

山内「ああ、昼出勤だからそれまでは」

たえ「じゃあ何かしよう」

山内「ご飯でも作ろうか？特別な」

たえ「それじゃ今日と同じじゃない。食事は私が作るから何かお祝いして」

山内「お祝い？……わかった考えとく。じゃ」

山内、上着を羽織って玄関から帰る。

たえ「あ、行っちゃった…」

○ 小学校・理科室

白衣を着た森倉とたえがいる。

たえはカルメ焼きを食べている。

たえ「たまに食べると美味しいね」

森倉「アルコールランプ使う実験は最後にこれ作ると生徒の受けがいいわけよ」

たえ、アルコールランプの火を吹き消そうとする。

森倉「駄目だって、火を消すときはこうやって蓋をかぶせるの」

森倉、アルコールランプの火を消す。

森倉「で、用事って？勉強でもしにきた？」

たえ「一部当たってる。森倉君さ山内君の好物って知ってる？」

森倉「何？手料理でも作ろうと？そうだな、よく鍋とかは食いにいくけど」

たえ「鍋？それだ。ねえ、鍋ってどうやって作るの？」

森倉「どうやってって、具いれて煮るだけだろ？何？ひょっとして料理駄目なの？得意料理は？」

たえ「え？……冷奴とか」

森倉「切るだけだろそれ。はあ、でもあれだろ？鍋してもアイツが絶対仕切るぞ」

たえ「鍋奉行なの？」

森倉「っていかお節介焼きだろアイツ」

たえ「そうかな」

森倉「そうだろ、だってウチの生徒が病気になったって言ったらわざわざ自分の病院にいらさせたりしてくれるんだぞ」

たえ「そうか」

森倉「危なっかしいのみると構わないといられないんだらうな」

たえ「そうなんだ」

たえ、カルメ焼きを全部口に頬張る。

○たえのマンション・玄関・外 朝

土砂降りの雨が降っている。

山内がインターホンを何度も押す。

パジャマ姿のたえがドアを開く

山内「おはよう。電話切ってた？」

たえ「あ、ごめん寝てた。随分早いね」

山内「いや、そうじゃなくて、ごめん。脱走されちゃって今から病院行かないと行けないんだ」

たえ「脱走？何それ？」

山内「肺炎の子が病院抜け出して、この雨だしすぐ探さないと」

たえ「それは他の人がやればいいじゃない。何も山内君が行くこと……」

山内「危なっかしい子なのに放っておくわけには行かないし」

たえ「…そうだよね放っておけないから構うだけなんだよね。…もういいよ。ご勝手に」

山内「え？どうしたの？」

たえ「勝手に騙されてた私が馬鹿でした。約束破ってどこにでも行けばいいよ」

じつと山内の目を見据えるたえ。

山内、被っていたニット帽を外したえにかぶせる。

山内「わかった。ごめん。じゃあね」

山内、たえと視線を合わせずに去る。

○同・居間 夜

カセットコンロの上に鍋が置いてある。

炬燵にはいつているたえ。

たえ「これで火つけたらいいだけでしょ。こんなの一人で作れますって」

たえ、マッチを擦るが上手く擦れずマッチを折ってしまう。

たえ「何にも出来ないと思って馬鹿にして…」

たえ、再び擦るがまたマッチを折る。

たえ「何よそれ。馬鹿にしないでよ！」

たえ、何本もマッチを擦っては折る。

○ 同・居間

たえが炬燵につつぷして寝ている。

炬燵の上には煮えた鍋。

山内、たえの帽子を外す。

山内「よし、寝癖もう直ったね」

たえ、目を醒ます。

山内「何？焚き火でもする気だった？」

炬燵の上には無数の折れたマッチ。

たえ「なんでいるの？」

山内「犯人を即確保したの。あ、これあげる」

山内、たえにカルメ焼きを渡す。

山内「脱走犯からのプレゼント。どうしたの？三十路だと誕生日も嬉しくない？」

たえ「別にそういうわけじゃ…」

山内「そう？じゃあ景気付けにアルコールでもどうぞ」

山内、たえに焼酎を渡す。

山内「まだよく分からないから、とりあえず欲しがってたなって」

たえ「あ、うん欲しかった。ありがとう」

山内「ごめん、もう昼だから病院戻らないと。飲みすぎないでね」

山内、上着を羽織って玄関から帰る。  
たえ、焼酎の瓶をぎゅっと抱く。

【終】

※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 (gumba1227@hotmail.com) までメール報頂きますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はございません。
- ・ 連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

※連絡不要の場合

- ・ 仲間内で集まつての練習でのご利用。
- ・ Skype などを紹介しての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。

※連絡が必要となる場合

- ・ ツイキャスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。
- ・ 連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

[gumba1227@hotmail.com](mailto:gumba1227@hotmail.com) (岩本)